

# 職場現実・組合員の声でJR東労組をさらに強化していこう！

主催者あいさし(要旨) 佐藤中央執行委員長

## 1. JR東労組として果たすべき役割は何か

「雇用と職場を守るためのJR東労組緊急提言」を提起し議論して頂いている一方で、緊急提言の意義についてまだまだ理解が深まっていないという課題もあります。

危機を主体的に受け止め、実践することは大変な努力を伴いますが、私たちはこれからの労働組合として待ちの姿勢ではなく、主体的に現実を受け止め立ち向かわなければなりません。重要なことは、一つの課題を役員や一部の人が取り組むのではなく、組織強化・拡大を目的において、組合員と共に運動をつくり出すことです。2つのセッション討論では、職場運動づくりにおける教訓点や課題などを出し合い、JR東労組全体のものにしていきましょう。

今後、昭和採用の先輩が退職していけば、組織人数は更に厳しい状況になります。だからこそ、組合員や離脱者、未加入者との議論をつくり、「JR東労組でこれからの頑張りうー」という仲間づくりを通じて、組織の足元を固め、組織拡大を実現していかなければなりません。

「雇用と職場を守るためのJR東労組緊急提言」を提起し議論して頂いている一方で、緊急提言の意義についてまだまだ理解が深まっていないという課題もあります。

## 2. 年末手当について

年末手当は、2・2ヶ月で11月13日に受結しました。コロナ禍で激変する社会の中でも収益を確保しているのは、組合員・社員のたゆまぬ努力の結果であることを団体交渉で訴えてきました。そもそも赤字下での初めての交渉は厳しいものでした。席上受結せずに全地本代表者会議を開催した後、妥結し、中央本部見解を提出しました。年末手当要求実現に向けたたたかいで、組合員と共に危機感を持って現実に向かい、厳しい道は切り拓かれるという教訓を得ました。ピッチをチャンスに変えて、組織一丸となって組織拡大に向けた実践を展開しようではありませんか。

引き続き、雇用と職場を守るための実践に向けて、緊急提言に貫かれている意義を自分自身のもので、組合員の皆さんと丁寧な議論を積み重ねて頂くことを要請します。

## 3. 組織課題について

現在もJR東労組への組合差別や組織破壊攻撃は止むことはありません。18春闘総括から逃し、あらたな「労働組合」がいくつか結成されてきましたが、さらにあらたにJR東労組の組合費不正使用がおこなわれていた事実が発覚しました。中央本部は、法的手段も含めて厳正に対処します。そして、真実を知らない他労組組合員にも伝えていき、JR東労組への結束を呼びかけていかなければなりません。

また、会社は「不当労働行為はない」と言いますが、転勤懲罰において一部管理者から「希望を叶えなければ考えなさい」と組合員に話しをされ、組合加入を継続するの可否か悩んでいる組合員の声等が届いています。私たちは、管理者の行き過ぎた言動等に見られる不当労働行為は断じて許しません。JR東労組は、組合員や離脱者、未加入者に寄り添い、混乱する社会や赤字という会社の現実を丁寧に議論し、職場で働く仲間の信頼を得るための努力を続けます。組合員の求心力を高めるための活動を凝縮することなく、丁寧な議論を心がけ、実践していきましょう。

JR東労組は、職場において発生している問題を組合員と共に解決する組織です。新生JR東労組運動宣言に貫かれている項目を一つひとつ捉え返しながら、これからの厳しい道を組合員と共に進んでいきます。

## 活発につくり出した討論の主な内容

### 【第1セッション】 施策検証と働きがいの創出に向けて

▼コロナ対策で保線はデポに出勤、信通は2班体制で対応したり、職場ではアクリル板やビニールなど三密を避けるために対応してきた。テレワークでは勤務の管理が不透明だという意見がある。より良い環境を整えていかなければならない(工務) ▼「電気部門の変革2022」では、遠隔操作などのスマートメンテナンスを進めようとしたが1年経過してもほとんど進んでいない。環境が追いついていない状況にある。



「電機部門の変革2022」の検証を行う。職場の垣根を越えてより良い職場をつくることはJR東労組からできることだ(盛岡) ▼コロナ禍でテレワークを実施しているが、ハード面が対応しきれていない。テレワークは、JRだけでなく社会全体として労働時間管理よりも成果が重視される。ワーケーションなどの新しい働き方で、安全・健康・ゆとりを求めていく必要がある(きかく) ▼企業は人に優しくなければならぬ。人との信頼関係が重要になってくる(東京) ▼「地域と共に歩む」ためにも

地元配属の方がメリットが多い(仙台) ▼地本の政策フォーラムを通じた運動・組織づくりを目指してきた。施策にどう向き合い議論するかを継続して、JR東労組を実感できる取り組みを行っていく(横浜) ▼3月のダイヤ改正での基地再編問題を職場全体で議論してきた。離脱者へも問題提起し、車掌が入れ換えを行うなど提言をつづけた。さらに検証し具体的な提言を目指していく(秋田) ▼施策が次々と行われていくが、納得感を持つ施策とする



ためにも労働組合の大切さを組合員に伝えていかなければならない(長野) ▼ジョブローテーションの異動に際し、宇都宮運転所では希望しない配属に対して落ち込む組合員に寄り添ったたかいとして、分会全体の運動をつくり出してきた。ある運転区では指導になるために「組合を卒業しなくては」などの話がされている(大宮) ▼ジョブローテーション施策を担う立場で進めてきたが、確認してきた内容とかけ離れた管理者の説明や対応が多い。職場での議論を繰り返して制度の理解を深めていく(盛岡) ▼盛岡の提言を聞いて、ジョブローテーションをJR東労組からつくり出す必要性を改めて感じた。組合員の側から管理者に対してコミュニケーションを取ることも必要だ(秋田) ▼自己申

告書の記入についても離脱者も含めて丁寧に議論してきた。年末手当の結果は、赤字下においても社友会ではなく労働組合から勝ちとれたものだ。職場でJR東労組が過半数を取らなければ組合員の労働条件の向上は勝ちとれない(千葉) ▼やはりコミュニケーションが重要だ。社員も管理者も同様に人材育成をしていかなければならない(かんり)



## 発表テーマ・機関

### 第1セッション 施策検証と働きがいの創出に向けて

- 私たちの「ジョブローテーション」とするために【盛岡地本 部会協議会】
- コロナ禍での厳しい経営状況で私たちは何をなすべきか？【仙台地本政策プロジェクト】
- 多様な働き方に対応した住環境制度の見直し【横浜地本政策プロジェクト】
- コロナに負ケルナ！自分たちの手で創る新しい働き方の検証【大宮地本 大宮電力技術センター分会・大宮信号通信技術センター分会】

### 第2セッション 緊急提言実現に向けた職場からの挑戦

- 職場からの挑戦！雇用と職場を守るため共にたたかう仲間をつくり人間性あふれる職場をつくり出そう！【中央本部】
- 組合員の雇用と利益を守るための収入確保。私たちに何ができるのか？【営業部会】
- 車両センターの体験パーク化【秋田地本 秋田総合車両センター分会・秋田車両センター分会】
- 新たなワンマン運転に際して不安無く乗務できる体制を創りあげ、職場からの挑戦で黒字経営に向けた政策を実現しよう！【千葉地本ワンマン運転プロジェクト】



第1セッション司会 盛岡地本 木村信宣部長



第2セッション司会 千葉地本 今野業務担当部長

## ご来賓

JR総連 山口執行委員長  
小林政策・政治部長

お忙しい中、最後までご参加いただき  
ありがとうございました。